

学校施設の長寿命化及び再配置の検討について

1. 公共施設の更新問題

今後の更新費用と財源の見込み【江南市公共施設等総合管理計画より】

令和 37 年度までの更新費用と充当可能な財源の見込み（上水道、下水道は含まず）

（令和 6 年 4 月時点）

種 別	更新費用の見込み （試算結果）	充当可能な 財源の見込み	不足額 （充足率）
公共施設	696.1 億円 (21.8 億円/年)	438.4 億円 (13.7 億円/年)	▲257.7 億円 (63%) (▲8.1 億円/年)
インフラ施設 （普通会計）	246.4 億円 (7.7 億円/年)	214.4 億円 (6.7 億円/年)	▲32.0 億円 (87%) (▲1.0 億円/年)
合 計	942.5 億円 (29.5 億円/年)	652.8 億円 (20.4 億円/年)	▲289.7 億円 (69%) (▲9.1 億円/年)

現在の施設を全て同じ規模のまま維持、更新していくためには約 289.7 億円財源が不足

⇒ 全ての公共施設を現在と同規模で維持・更新することはできない

2. 学校施設の位置づけ

小中学校は、市が所有する公共施設の総延床面積のうちの 5 割以上を占め、ランニングコストも大きく、抑制の工夫が必要である。また、老朽化が進行した施設が多いため、その改修・更新費用も莫大なものとなる。

⇒ ・コスト縮減のため他の公共施設との複合化
・財源の確保と計画的な施設改修・更新及び再配置

施設一覧

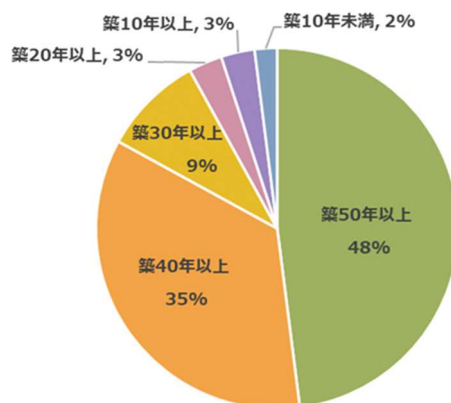
（令和 6 年 4 月時点）

施設分類		延床面積 (㎡)	割合 (%)
市民文化系施設	文化施設	11,038.76	5.14
	集会施設	6,743.04	3.14
社会教育系施設	図書館	4,516.07	2.10
スポーツ・レクリエーション系施設	スポーツ施設	11,159.62	5.19
行政系施設	庁舎等	10,664.78	4.96
	消防施設	3,616.87	1.68
	防災施設	1,893.20	0.88
学校教育系施設	小学校	73,339.19	34.12
	中学校	41,366.16	19.25
	給食センター	2,690.25	1.25
子育て支援施設	保育園	16,568.07	7.71
	児童館等	3,589.79	1.67
保健・福祉施設	保健施設	2,292.41	1.07
	高齢福祉施設	2,802.28	1.30
	児童福祉施設	574.61	0.27
	障害福祉施設	459.69	0.21
医療施設	医療施設	296.4	0.14
産業系施設	産業系施設	8,267.59	3.85
公営住宅	公営住宅	12,233.93	5.69
公園	公園	660.72	0.31
最終処分場	最終処分場	163.57	0.08
合計		214,937.00	100.00

3. 学校施設の老朽化の状況

(1) 経過年数

令和3年3月時点における築50年以上の建物は面積ベースで全体の約48%、築40年以上50年未満の建物は面積ベースで全体の約35%を占める。



【江南市学校施設長寿命化計画より】

(2) 劣化状況

屋根・屋上を中心に定期的に改修を実施しているが、平成26～27年度に実施した門弟山小学校の大規模改造工事を最後に、校舎の大規模改造工事は実施されておらず、令和3年3月時点で各学校において外壁・屋上防水・機械設備の劣化が顕在化している。

1回目の大規模改造工事から30年以上経過した学校が複数ある状況となっており、外壁・屋上防水・機械設備の改修スケジュールの策定が必要である。

【江南市学校施設長寿命化計画より】

建物基本情報						劣化状況評価				
通し番号	施設名	建物名	建築年度		築年数	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
			西暦	和暦						
2	古知野東小学校	校舎	1967	S42	53	A	C	B	B	B
6	古知野西小学校	校舎(南)	1967	S42	53	B	B	B	B	C
7		校舎(北)	1972	S47	48	B	B	B	B	C
14	古知野南小学校	校舎(北)	1965	S40	55	C	B	B	B	C
17		校舎(南)	1969	S44	51	A	C	B	B	C
24	古知野北小学校	校舎(北)	1970	S45	50	B	B	B	B	B
26		校舎(南)	1976	S51	44	B	B	B	B	B
33	布袋小学校	校舎(北)	1968	S43	52	A	B	B	B	B
36		校舎(南)	1970	S45	50	C	B	B	B	B
41	布袋北小学校	校舎(北)	1966	S41	54	A	B	C	B	C
42		校舎(南)	1974	S49	46	A	C	C	B	C
48	宮田小学校	校舎(北)	1967	S42	53	A	C	B	B	C
49		校舎(南)	1964	S39	56	A	B	B	B	C
54		校舎(北)	1987	S62	33	A	C	B	B	B
55	草井小学校	校舎(北)	1971	S46	49	B	C	B	B	B
56		校舎(南)	1975	S50	45	B	B	B	B	B
62	藤里小学校	校舎(北)	1968	S43	52	A	C	B	B	C
64		校舎(南)	1970	S45	50	C	C	B	B	C
70	門弟山小学校	校舎(北)	1977	S52	43	A	A	A	A	B
73		校舎(南)	1983	S58	37	A	A	A	A	A
76	古知野中学校	校舎(北)	1968	S43	52	A	B	C	B	C
78		校舎(南)	1972	S47	48	A	B	B	B	B
83	布袋中学校	校舎(南)	1971	S46	49	A	A	B	B	B
84		校舎(北)	1972	S47	48	A	A	B	B	B
91	宮田中学校	校舎(北)	1967	S42	53	C	B	B	B	C
92		校舎(南)	1971	S46	49	B	A	B	A	B
97	北部中学校	校舎(中)	1964	S39	56	A	C	B	B	C
98		校舎(南)	1965	S40	55	A	C	B	B	C
101		校舎(北)	1983	S58	37	B	C	B	B	B
104	西部中学校	校舎	1981	S56	39	A	A	A	A	B

評価基準

目視による評価【屋根・屋上、外壁】

評価	基準
良好 A	概ね良好
B	部分的に劣化(安全上、機能上、問題なし)
C	広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)
劣化 D	早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し施設運営に支障を与えている)等

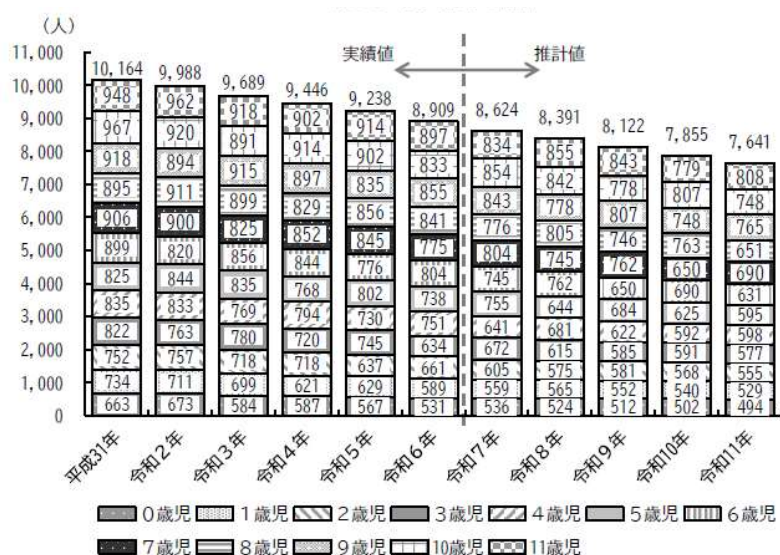
経過年数による評価【内部仕上、電気設備、機械設備】

評価	基準
良好 A	20年未満
B	20～40年
C	40年以上
劣化 D	経過年数に関わらず著しい劣化事象がある場合

4. 学校と他の公共施設の複合化

本市の小中学校は、市内にバランスよく配置されていることから、児童生徒数は減少傾向にあるが、多くの学校で保有する学級数が大きく減少することがなく、今後も学校を維持運営できるだけの規模にあると予想される。一方で、公共施設全体の更新費用と財源見込みは厳しいことから、施設の維持管理費（ライフサイクルコスト）の縮減を図る必要がある。そのため、学童保育所や放課後子ども教室は利用する児童の安全性にも配慮し学校内への設置を原則とすることや、学校に近接し老朽化した公共施設（集会施設）を複合化するなど、今後の年少人口の減少や少子高齢化に伴うニーズの変化に対応した新たな公共サービス提供の場として、地域のバランスにも配慮した上で再配置を図る必要がある。

子どもの人口推移と推計【第3期江南市子ども・子育て支援事業計画より】



小学校の規模と学級数等【江南市教育委員会 児童生徒動態調査（令和7年5月）より】

学校名	延床面積 (校舎)	令和7年度			令和12年度			学級数 増減
		児童数	児童1人当たり面積	学級数	児童数	児童1人当たり面積	学級数	
藤里小学校	7,664.60	126	60.83	6	105	73.00	6	0
古知野南小学校	6,894.04	736	9.37	23	692	9.96	23	0
布袋小学校	6,432.03	789	8.15	26	664	9.69	23	△ 3
宮田小学校	6,109.35	480	12.73	17	362	16.88	14	△ 3
古知野東小学校	5,116.11	712	7.19	23	652	7.85	20	△ 3
草井小学校	5,074.76	322	15.76	12	248	20.46	11	△ 1
布袋北小学校	4,760.32	385	12.36	14	276	17.25	12	△ 2
古知野西小学校	4,420.11	340	13.00	12	283	15.62	11	△ 1
古知野北小学校	4,324.06	509	8.50	18	400	10.81	15	△ 3
門弟山小学校	3,638.76	408	8.92	15	309	11.78	12	△ 3

5. 小中学校校舎の改修・更新と再配置

老朽化への対応、改修・更新を計画的に進めるとともに、地域（学校区）によって児童生徒数の減少率が異なり、減少率の著しい地域は再編など将来を見据えた学校のあり方を検討する必要がある。

（１）短期的な取組

藤里小学校の主な通学区域の藤ヶ丘地区の人口減少が大きく、今後においても増加する見通しはないことから、藤里小学校と宮田小学校との統合を検討する。

【課題等】

①児童数・・・藤里小学校の児童数が減少し、1学年1学級となっており、建物規模との乖離が大きく、他校との比較でも規模が小さい状況である。

②保護者、地域住民の意向・・・統合への理解、統合を望む声はどの程度あるのか。
学校・学校運営協議会・地元区・PTA・保護者・児童等に対して、丁寧な説明と意向調査が必要である。

ex. 説明会、座談会、アンケート調査

③統合先の小学校の整備・・・統合後の教室数の見込み及び大規模改修工事の実施が必要である。

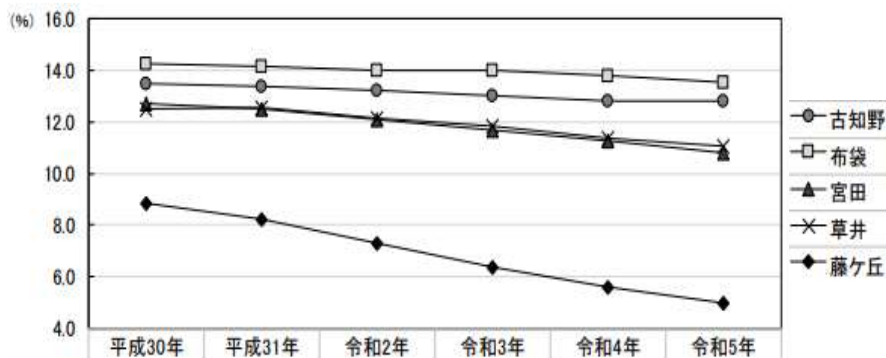
学童保育所、放課後子ども教室の学校内への設置の方法について検討する。

④統合後の跡地活用・・・藤里小学校のプール施設敷地には、（仮称）宮田東・藤里統合保育園が整備されるが、統合後の跡地は、将来的な学校再配置のための候補地とする。

（２）長期的な取組

藤ヶ丘地区の人口減少は児童のみならず、中学校生徒も減少し、将来的には宮田中学校の適正規模の検討も必要になると見込まれ、その場合においては、宮田、藤ヶ丘地区の小学校、中学校を一体的に再編することも方策の一つとして検討するとともに、通学方法をはじめ様々な教育環境の整備について総合的に検討する。

地区別年少人口割合の推移【江南市地域福祉計画より】



※年少人口：0歳から14歳までの人口
資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）